

## 第7章 教育の振興

### 1 現況と問題点

#### (1) 学校教育

高崎地域の各小中学校の児童生徒数は、昭和30年頃をピークに激減し、その後昭和50年頃からは一旦横ばいで推移していたが、平成に入った頃から再び減少を続けている。現在小学校5校の内3校で複式学級編制を余儀なくされており、一つの教室で異なる学年の児童に対し同時に授業を行わなければならない、各学校では児童の発達の段階を考慮した指導過程や学習形態の工夫等に取り組んでいるところである。そのような中で笛水小学校と笛水中学校においては、都城市立小中学校適正配置方針に基づき、集団性確保のため平成22年度から小中一貫校として開校している。児童生徒数の平成27年度までの推計は、表6-1のとおりとなっており、今後とも減少傾向が続く見込みである。

表6-1 年度別児童生徒数、学級数の推計（高崎地域）（単位：人、（ ）内は学級数）

区 分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
高崎小学校	275 (10)	265 (10)	276 (11)	254 (11)	256 (11)	253 (11)
高崎麓小学校	42 (4)	37 (4)	35 (3)	30 (3)	31 (4)	33 (4)
江平小学校	77 (6)	67 (6)	55 (6)	55 (5)	50 (5)	43 (5)
縄瀬小学校	61 (5)	60 (5)	56 (5)	54 (5)	51 (5)	50 (5)
笛水小・中学校	32 (5)	31 (6)	29 (5)	25 (5)	25 (5)	22 (5)
高崎中学校	290 (9)	265 (9)	239 (8)	252 (8)	225 (7)	224 (7)
計	777 (40)	725 (40)	690 (38)	670 (37)	638 (37)	625 (37)

資料：高崎総合支所 教育課

また学校施設としては、耐震化しなければならない校舎が4校において依然として残っており、さらに4校の体育館については老朽化に伴い早急な改修が必要となっている。併せて、少子化の著しい本地域では小規模校の多い現状から、児童生徒の一人ひとりにきめ細かな教育は出来るものの集団教育機能の低下等が課題となっており、今後教育内容の改

善充実を図る必要がある。

高崎地域の学校給食センターについては、地産地消を基本にしながら、栄養のバランスを考えたおいしい給食を児童生徒に提供しているところである。

## (2) 社会教育

近年、生活様式の変化や価値観の多様化により、生きがいをづくりや自己実現のために、生涯学習の果たす役割はますます重要となっている。生涯にわたって、いつでも、誰でも、何でも学習できるような生涯学習の機会提供や施設の充実、指導者と学習者をつなぐネットワークの確立をさらに進める必要がある。

また、社会教育関係団体においては、会員数の減少や会員意識の低下等によりこの数年間で数団体が解散となっているが、地域社会の再生・活性化のためにもこのような社会教育関係団体の活性化を支援していかなければならない。

スポーツの振興については、これまで体力づくりや健康づくり、ひいては地域の連帯感の醸成や人材育成につながる各種スポーツイベントを積極的に実施してきたところである。しかし、少子高齢化が一層進む中で実施が難しくなっており、それらのイベント存続が課題となっている。

「たちばな学び館」については、蔵書数が絶対的に少ないことや古い図書も多くあり、開館当初からすると年々利用者が減少している状況である。今後、市立図書館等との連携により利用の向上に努める必要がある。

## 2 その対策

### (1) 学校教育

- ・校舎の耐震補強と老朽化した体育館の改修をすることにより、構造耐震指標（I s 値）0.7以上の耐震性能を有する学校施設とし、安心して安全な教育環境を整備する。
- ・学校規模が小さいことはマイナス面で捉えられることが多いが、少人数指導の方が児童生徒一人ひとりに目が届き、教育効果は高い場合もある。それに併せて、小規模校

の課題である集団教育機能を向上させるために、児童生徒を 1 箇所に集合させて授業を行う交流学习を推進する。それにより、コミュニケーション能力や社会性を培う授業を実現する。

- ・学校、家庭、地域との連携は今後ますます重要となってくるものであり、生涯学習の基盤、あるいは地域の防災拠点としての学校開放を進めるなど、なお地域に開かれた学校づくりを推進する。
- ・学校給食については、地元の食材を出来るだけ使用することにより、これからも安心安全でしかもおいしい給食を提供し続けていく。また、学校栄養職員による児童生徒の給食状況の把握と食指導による食育も推進する。

## (2) 社会教育

- ・生涯学習に対するニーズの多様化・高度化に対応するために、社会教育施設の充実を図るとともに、生涯学習環境を支える人材の育成に努める。また、学んだ効果が地域づくりに活かせるような仕組みを構築する。
- ・社会教育関係団体の活性化を支援すると共に、地域交流や世代間交流を推進しながら、団体相互の連携強化を図る。
- ・これまで実施してきた様々なスポーツイベントについては、少子高齢化の一層進む中で実施が厳しい状況であるが、誰でも気軽に参加できるスポーツイベント等を中心にしてその存続を目指し、スポーツ振興を図りながら地域活性化につなげていく。
- ・たちばな学び館については、利用者の利便性向上のため昨年度から市立図書館と連携して、市立図書館の図書を学び館で借用返却できるようにしているところであるが、今後積極的にPRをして利用者増を図る。また、たちばな学び館の蔵書を増やす方法を検討する。

事業計画（平成 22 年度～27 年度）

自立促進施策 区 分	事業名 (施設名)	事業内容	事業主体	備考	
6 教育の振興	(1) 学校教育関連 施設	(学校教育関連施設)			
		公共学校施設整備事業 (笛水小・中学校施設整備)	市		
		公共学校施設整備事業 (高崎中学校耐震補強)	市		
		公共学校施設整備事業 (高崎小学校耐震補強)	市		
		公共学校施設整備事業 (縄瀬小学校耐震補強)	市		
		公共学校施設整備事業 (江平小学校耐震補強)	市		
		公共学校施設整備事業 (笛水小・中学校屋体改築)	市		
		公共学校施設整備事業 (縄瀬小学校屋体改築)	市		
		公共学校施設整備事業 (高崎麓小学校屋体改築)	市		
	(4) 過疎地域自立 促進特別事業	(過疎地域自立促進特別事業)			
		青少年健全育成推進事業	市		
		スポーツ団体運営費	市		
		高崎学校給食センター管理運営費	市		
		高崎教育集会所管理運営費	市		
		笛ヶ水教育集会所管理運営費	市		
		たちばな学び館管理運営費	市		
	(5) その他	(その他)			
		小学校教育振興費	市		
		中学校教育振興費	市		
		女性教育推進事業	市		
		社会教育関係団体等連絡協 議会振興事業	市		
		青年育成推進事業	市		
		高齢者教育事業	市		